写真　親授式　於：総本山 智積院

発　行
持　寶　院
〒321-0343
宇都宮市田下町563
電　話　028-652-1488
ＦＡＸ　028-652-8098
印　刷　㈱井上総合印刷
〒321-0973
宇都宮市岩曽町1355番地
電　話　028-661-4723

謹賀新年

多氣山持寶院　住職　伊東永人

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げますと共に、健やかに新春をお迎え頂きましたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年も広島での土砂災害や御嶽山の大噴火等、甚大なる自然災害に見舞われ、多くの方が犠牲となられました。お亡くなりになられました皆様のご冥福を心からご祈念申し上げます。当山では御本尊不動明王御宝前におきまして、元朝特別大護摩供さらに新春特別大護摩供を毎日修法し、世界の平和と日本国土の安穏を祈念するとともに、檀信徒皆様方の諸願成就を祈念申し上げて参ります。

昨年十二月八日当山長老永峯に於きましては、総本山智積院菩提院結衆に列座が承認され、寺田信秀化主猊下から辞令をいただく親授式に参列いたしました。菩提院結衆は真言宗智山派寺院僧侶の中から五十人が選ばれ、任期は終身で総本山智積院の大きな法要に出仕するという、大変名誉ある職です。今後も宗派や当山檀信徒の皆様方の為に活躍できるよう、健康に留意してもらいたいと思います。

本年は当山御本尊不動明王が氏家勝山城から遷座され六八〇年の節目を迎えます。御不動様が旧暦の八月一日に遷座されたことから、月遅れで毎年九月一日に『八朔祭』を執り行い、年一度の御開帳をして大護摩供を修してまいりました。しかしながら毎年、仕事や学校などの都合でどうしても家族揃ってお参りをすることが難しいとの声を聴き、心苦しく思っておりました。そこで、六八〇年を節目に出来るだけ多くの檀信徒の方々と深い御縁を結んでいただきたく、本年より『八朔祭』を九月第一日曜日に変更させて頂きます。加えて前日の土曜日夜には、八朔祭宵祭り『万燈会』を厳修する運びとなりました。当山では、平成二十三年九月十一日に栃木智山青年会主催による東日本大震災慰霊法要『万燈会』が執り行われましたが、諸堂から参道に至るまで、境内にお供えされたローソクの灯で荘厳された幽玄な景色を記憶されている檀信徒の皆様も大勢いらっしゃることと思います。遅い時間の法要となりますが何卒皆様方のご理解とご協力を謹んでお願い申し上げます。

また多氣山巡礼会では、本年より二年計画で「西国三十三観音霊場」をお参りする計画を立てています。詳細は決まり次第ご案内を申し上げますが、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

本尊不動明王からの大いなるご加護をいただき、ご家族の皆様、会社の皆様が益々ご健勝でお過ごしいただき、素晴らしき一年となりますことをますことを心から御祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

合　掌

霊峰富士登拝修行

石本　隆雄

七月十八日、高尾山にて私は右も左も分からぬ山伏の世界へと足を踏み入れた。私に出来る事、それは必死に周りに付いていくことだった。それでも無知なことが不安を膨らませた。行に入ると最初に滝行する上での説明、所作を先達から聞き滝壷へと入っていく。滝に近づくと恐怖に襲われ雑念が消えた。気合いを入れ滝に入り真言を唱えた。何度も。何度も。只ひたすら唱え続けた。すると不思議なくらい自分自身が清らかに感じた。大袈裟かもしれないが、まるで生まれ変わったかの様にさえ思えた。

次の日からの徒歩練行は歩くというシンプルな事が辛かったが、常に明るく振る舞う事で紛らわした。そして富士山へ入ると穀物を断ったり、水を断ったりするのだが、水を断つ事が不安になるとは思わなかった。「懺愧懺悔、六根清浄」と唱え登っていく、声を出して歩けば汗をかくし喉も乾く、しかし飲めない。身近に存在して当たり前だと思っていた事は当たり前ではなかったのだと思い知った。当然の如く思っている物ほど無くなると不安になり、その事柄に慣れてしまい、感謝する事を忘れてしまうものではないだろうか。何事も初心を忘れない事が大切だと再認識した。その他にも仲間の大切さも学んだ。「六根清浄」の声、周りの声が自身を奮い立たせ押し上げてくれる。辛くても周りに仲間がいる、仲間と一つのことをやり遂げる事に幸せを感じた。そして山頂が近づくとそこから見える景色、どんな世界が待っているのかと心を弾ませた。その反面、終わってしまうのかと寂しい思いもある。複雑な心境を感じながらいざ山頂へ歩みを進める。

富士山。日本一の山の頂上に立つ。全く想像もしなかった世界。眼下に雲海を望み、空の地平線を眺め、達成感と感動に酔いしれた。御来光を望めば太陽の暖かさに幸せを感じ、生かされているのだなと実感した。振り返れば、行者を常にサポートしてくださった事務局の方、練行している時に「頑張ってください」と声を掛けてくださる方、「頑張ってきなさい」と送り出して下さった長老、住職、家で待ってくれている家族、そして何より一緒に行をしている仲間の存在、沢山の方に支えて戴き今がある。本当に有り難い。この自然と有り難いと思えることが幸せに感じた。長い道のりの一歩一歩が勉強であり、学ぶ事も多かった登拝行。感謝の気持ちが自然と湧いてくる貴重で贅沢な時間だった。沢山の方に支えて戴き、沢山の方から多くを学ばせて戴いた。私もこれを色々な方に伝え、また支えられるように日々精進し、歩んで行きたい。

六根清浄。金剛杖と共に…

合　掌

高尾山から富士山まで歩いての修行

左 筆者 富士山頂にて

秩父三十四観音霊場の徒歩巡拝を終えて

川又　道子

九月三十日、澄み渡る秋空の下、多氣山持寶院のご住職を先頭に、私達二十八人は「廻りきれるかな…？」といった不安と共に秩父に向かいました。

ご存知の通り、秩父には定められた霊場が三十四ヶ寺あります。このうち二十三ヶ寺は既に、去る五月に巡礼を済ましておりましたので、今回は残された十一ヶ寺を二泊三日の予定で巡礼をしてまいりました。

25番札所　久昌寺

秩父のお寺はいずれも山寺が多く、京都で見るような豪華さや派手さはありませんが歴史の重みが感じられ、なかには重要文化財に指定されている寺院も数多くありました。

大日峠にて集合写真

第二十四番霊場、法泉寺を振り出しにお寺からお寺へと徒歩で移動しましたが、山道は狭く一列になって腰を屈めながら、ご住職の「慚愧懺悔、六根清浄」の掛け声に励まされ、ゆっくりゆっくりと歩き続けました。

法性寺本堂

途中、谷間からせせらぎの音が聞こえ、古木の切り株に腰を下ろしますと、秩父の山並が、そして小鳥のさえずり、秋を知らせるかのように爽やかな風が通り抜け、法螺の音が山々にこだまして、まるで別世界にいるようでした。

秩父三十四観音霊場の結願は水潜寺でした。このお寺にたどり着くまでには古道を渡り歩き山を越さなければならなく不安でした。

何度も転びそうになりながら、お互いに手を携え、助け合い励まし合って二時間半、ようやく全員無事に辿り着きました。振り返れば、道は険しくよくここまで登ってこられたものだ！と自分で自分を褒めてしまいました。

水潜寺では全員で一心不乱にお経とご詠歌をお唱えしました。するとどうでしょう。これまでの疲れがとれ、心が安らぎ、観音さまのお導きが幾分なりともわかってくるような思いにかられました。

その後、三日目の昼下がり、用意されたバスで満願の湯温泉に伺い昼食の後温泉に入り、のんびりと疲れを癒しました。

真新しかった白衣は汗にまみれ、金剛杖の先はささくれ、厳しい巡礼の旅でしたが、巡礼で培われた絆はより強く、しかも、楽しい思い出が残る二泊三日でした。

どうぞ皆様、多氣山巡礼会に参加され一緒に巡礼の旅に出掛けようではありませんか。きっと、良い事が待っていると思います。

「日光惣禅頂入峰修行の事」
大本山髙尾山薬王院

法務部法務課長　佐藤　秀仁

去る平成二十六年十月二十二日より二泊三日の行程で、多気山修験道主催による日光惣禅頂入峰修行に髙尾山の同僚と共に参加させて頂きました。

日光惣禅頂とは、多氣のお山を開かれた尊鎮法師のお師僧様に当る勝道上人により開かれた女峰山、小真名子山、大真名子山、男体山の日光修験の峰々を指します。

この修行の行程は、多氣山持寶院御山主であられる伊東永人師が古文書を頼りに、当時の修行の道を綿密に調べられ、勇猛精進をお積みになられた先徳達の足跡を永人師自らが大先達を勤め、一歩ずつ忠実に辿るべくした長く険しい修行の道のりでありました。

殊に、初日の日光二荒山神社の裏手に聳える女峰山頂までの延々と続く登り坂は、登れば登るほど傾斜が増すのであります。

冷たい雨の降りしきる中、わずかな平地を見つけて一息入れましても瞬く間に身体が冷え切ってしまう為に急速に体力を奪われてしまうのです。休憩であっても心の安らぎは無く、それから先の道中への心配が頭に募るのでありました。

しかし、伊東大先達は参加者の不安を察し、顔を和らげ、遠くの景色や石碑のいわれについて時折ユーモアを交えて語って下さいます。そうした大先達の心使いにより参加者は、これから引き続く急坂を登る勇気を振るい立たす事が出来たのであります。

さて、この修行の特色を特筆する時、急坂の数々を登っては下り、崖を越え、谷を渡る事を繰り返す過酷な道のりの事のみならず、寝袋に包まり寒さを堪えて朝を待つといった避難小屋での宿泊でありましょう。

避難小屋とは文字通り嵐や降雪時に於いて緊急避難を要する為の小屋ですので山小屋のような常駐する管理者はおらず、トイレや暖房といった設備も一切ありません。雨に濡れた身体を温めるには持参する乾いた物を着込むほかないのです。

さらに、必要最低限の水や食糧をリュックサックに詰め込み、自分で背負って歩きますので荷物の重さが肩に喰い込み、疲労と共に痛みが増すのであります。

しかし、こうした荷物の重さも山伏と致しましては、十界修行の業秤の如く自分の業であると受け止めるより無く、ふんだんに資源を消費する日々の生活においての浅はかな思い上がりを猛反省させられるのでありました。

最終日には、峰々の紅葉が光輝く程の快晴に恵まれた中、男体山の急坂をつづら折りに登り詰める山頂には、数十度登っても一度望めるかどうかの富士山を中心とする総大なる大パノラマが広がるのでありました。これまでの疲れを吹き飛ばす程の遠山の絶景には、まさしく仏の世界を荘厳する峰曼荼羅を拝するが如く、自然に頭が垂れ両手が胸の前に合わさるのでありました。

修行の締めくくりには二荒山中宮司に於いて正式参拝に参列の後、日光峰中での大修行は無魔成満となったのでした。

今般、お導きを賜りました永人大先達は、日光修行の再興という尊い善願を立てられ、修行の道をここまで切り開かれました。

これには、一重にご本人の相当の覚悟と、血のにじむような努力の結晶であるとお察し致し、頭を下げ、謹んで敬意を表すると共に、永人大先達との法縁を汚す事無く小生も身を律し精進する決意であります。

結びにあたり、永人大先達の的確な補佐として本修行の奉行をお勤めになられた小鍋靖仁師をはじめ、きめ細やかなお世話を頂きました事務局の坂本道彦師、鮎ケ瀬智優師、石本隆雄師他、関係諸師に衷心より御礼申し上げます。

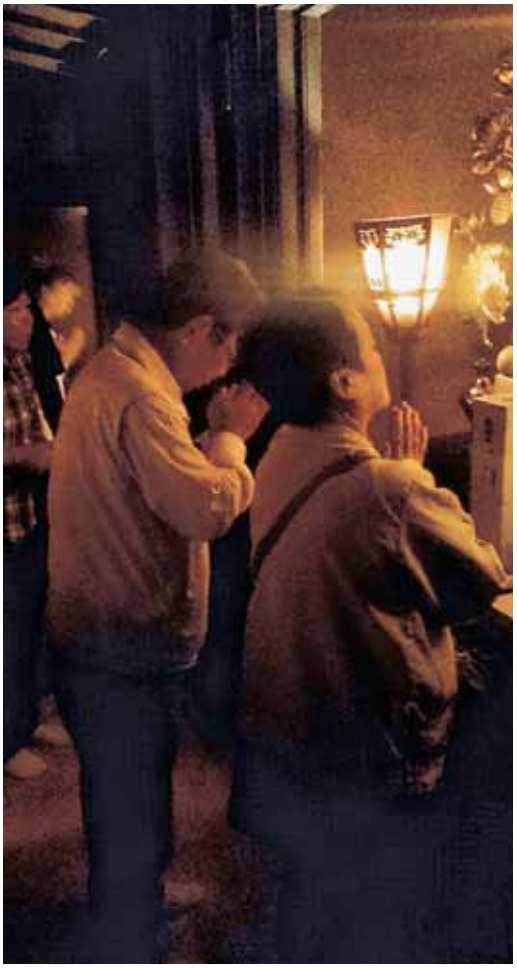
そして、永人大先達のご活躍を支える、多氣山ご長老をはじめ、令婦人様やお子様方、何より多氣のお山を支える多くの檀信徒の皆様の更なる御健勝と御多幸を心よりお祈り致します。

合掌

男体山山頂にて当山住職と筆者

本尊不動明王特別開帳

九月一日早朝六時より本尊不動明王御開帳のお護摩が厳修されました。お護摩の後の内陣参拝では、お清めの塗香と肌守りが授与され、多くの参拝の方が多氣山のお不動様とのご縁を結ばれました。



内陣参拝　御宝前で手を合わせる

塗香のお授け

肌守りのお授け

住職によるお護摩後の法話

七五三詣り

十月から十一月にかけ、七五三を迎えられた多くのお子様にご参拝をいただきました。

お護摩では、お子様の成長安全・無病息災をお不動様にご祈念し、お護摩札、身代わり御守、千歳飴、記念品が授与されました。可憐に着飾った子供達の真剣な眼差しがとても印象的でした。

健やかなご成長を心からご祈念申し上げます。

本尊不動明王
遷座六八〇年奉祝記念法要
八朔祭宵祭りご協賛のお願い

多氣山御本尊大聖不動明王は、建武二年（一三三五年）八月一日（旧暦）に宇都宮九代城主藤原公綱公により、氏家勝山城から当山御本尊として遷座されました。

平成二十七年は遷座より六八〇年という記念の年に当たり、当山に於きましては左記の如く奉祝記念法要を執り行い、御本尊不動明王に報恩感謝の意を表したく思います。

つきましては、十方有縁の皆様のご協賛を衷心より、よろしくお願い申し上げます。

至心合掌

記

八朔祭宵祭り　八朔祭万燈会法要

日　時　平成二十七年　九月五日(土)　午後七時

協賛願い　カップローソクの奉納

志納金　一個　五百円

平成二十六年十二月吉祥日

十方有縁各位

多氣山持寶院

行事予定

十二月
二十八日　納め不動
三十一日　除夜祭（除夜の鐘）

一　月　正五九詣り　初詣
一　日　新春大護摩修行
二十一日　初大師
二十八日　初不動ご縁日
特別大護摩供（午前六時）

二　月
三　日　節分会追儺式豆まき式
八　日　足尾権現春季大祭
二十一日　月並御影供法要
二十八日　ご縁日六時護摩

三　月
二十一日　春彼岸　中日　水子供養
二十一日　正御影供法要
二十八日　ご縁日六時護摩

四　月
二十一日　月並御影供法要
二十八日　ご縁日六時護摩

五　月　正五九詣り　五月詣
十七日　第七回多氣山大火渡り祭
二十一日　月並御影供法要
二十八日　ご縁日六時護摩

六　月
二十一日　月並御影供法要
二十八日　ご縁日六時護摩

節分会追儺式歳男・歳女・稚児募集のお知らせ

節分会・追儺式（豆まき式）歳男・歳女・稚児を募集致します。年齢を問わずお申込み頂けます。節分にあたり、除災招福・開運成就を祈願されますようご案内致します。

日　時　平成二十七年二月三日(火)　十一時より
場　所　本堂境内
志納金　歳男・歳女　三万円
　　稚　　児　一万円
締め切り　平成二十七年一月十日

第八回 多氣山大火渡り祭のお知らせ

平成二十七年五月十七日(日)午後一時より多氣山裏参道山麓道場において、第八回の大火渡り祭を行います。なお、火渡り御修行に参加された方には、肌守りを授与致しますので、是非皆様でご参加下さい。

また、柴燈護摩供大火渡りの特別護摩札、特別壇木、御幣お守りなどをご用意しておりますので、是非お申し込み下さい。

※火渡り祭護摩木の奉納は随時、多氣山持寶院寺務所、桃畑茶屋また当日は会場でもお受け致しております。

※護摩札、特別壇木は事前にファックスでもお受けしています。

人車一体交通安全祈祷

毎日午前八時半～午後三時半
随時行っております。
人車一体交通安全祈願料
一台につき七千円

水子供養

毎日午前八時半～午後三時半
随時行っております。
水子供養料
一霊につき一万二千円

※元旦より一月十二日までは、自動車交通安全祈願・水子供養はお休みさせて頂きます。

※十三日より二月三日節分までは、平日のみの御祈願・御供養となります。ご了承下さい。

編集部より

フェイスブックはじめました。

日々の行事や季節の花などを随時更新してまいります。フェイスブック未登録の方も閲覧できますのでご利用ください。

URL: http://www.tagesan.com
TEL: 〇二八-六五二-一四八八
FAX: 〇二八-六五二-八〇九八

※携帯電話のバーコードリーダーでアクセスできます。

▶多氣山不動尊
▶フェイスブック

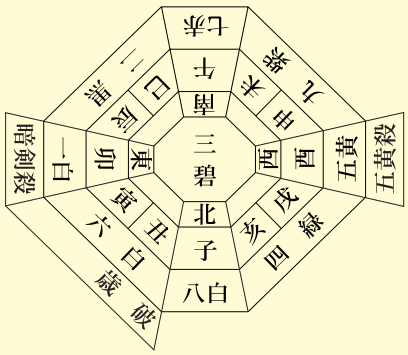
平成二十七年度の方位

新年あけましておめでとうございます。また、貴家益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成二十七年は乙（きのと）未三碧木星の年となります。乙は十干の二番目で、二日という日にちを表します。十二支の未は、木が大きく成長して、成長の限界に達したことを表し、これまでに起こった世界の色々な動きが限界にたどりつき先が読めないという年になります。日偏を付けると昧（まい）となり、「見えない」の意味で、花盛が終わり、実を結ぼうとしてまだ実が見えない状態を意味しています。

次に、立春から翌年の節分までの誰のも悪い方位を申し上げます。西に五黄星が移り五黄殺、その反対の東が暗剣殺、十二支未の反対、北北東に歳破となり三つの方位が凶方となります。どなた様も引っ越し、家の増改築、車の購入など十分ご注意ください。

皆様のご多幸と、ご家族のご安泰を心よりご祈念申し上げます。　合掌



◎移転、土動かし等、悪い方位。
・平成27年は、東・西・北東の方位が凶方となります。
・立春から節分までの一年間。

平成二十七年方位図

平成27年厄除早見表							
	前厄	本厄	後厄		前厄	本厄	後厄
男の大厄 42才	昭50年生	昭49年生	昭48年生	女の厄年 19才	平10年生	平9年生	平8年生
女の大厄 33才	昭59年生	昭58年生	昭57年生	幼児の厄年	平23年生	平22年生	平21年生
男の小厄 25才	平4年生	平3年生	平2年生	男女厄年 60才	昭32年生	昭31年生	昭30年生
女の小厄 37才	昭55年生	昭54年生	昭53年生	13才詣り　平成15年生			

方難除けをする生まれ年							
三碧生		六白生		八白生		九紫生	
昭9年	昭54年	昭15年	昭60年	昭13年	昭58年	昭12年	昭57年
18年	63年	24年	平6年	22年	平4年	21年	平3年
27年	平9年	33年	15年	31年	13年	30年	12年
36年	18年	42年	24年	40年	22年	39年	12年
45年		51年		49年		48年	

平成二十七年　新春大護摩供のご案内

当山では初詣・元朝特別大護摩供を奉修しております。年頭にあたりご家族お揃いで、開運招福・無病息災をお不動様にお祈りいたしましょう。

志納金

三千円・五千円・一万円・二万円・三万円・五万円以上

願　意

家内安全　身上安全　身体健全　当病平癒　厄除成就　方難除　方位除
災難除　本命除　商売繁昌　事業繁栄　工事安全　交通安全　心願成就
開運成就　必勝祈願　進学成就　学業成就　合格成就　就職成就　良縁成就
子授け祈願　安産祈願　初参り　六三除け　虫切り

新春大護摩修行時間

元旦	午前 零時 二時 六時 八時半 九時半 十時半 十一時半 午後 一時 二時 三時 四時
二日以降	午前 九時半 十時半 十一時半 午後 一時 二時 三時

迎光祭のようす